

## 動物用ワクチン－バイオ医薬品研究会

- 1 学会名：動物用ワクチン－バイオ医薬品研究会  
(The Japanese Society for Animal Vaccine  
and Biomedical Research)

2 事務所所在地：

〒252-0132 神奈川県相模原市緑区橋本台3-7-11  
財団法人 畜産生物科学安全研究所内  
TEL 042-762-2775  
FAX 042-762-7979  
E-mail jimukyoku@jsavbr.jp  
URL <http://www.jsavbr.jp/>

3 目的：

本会は、動物用ワクチン及びバイオ医薬品とその関連領域の研究並びに臨床応用の進歩発展に寄与することを目的とする。

4 組織：

会長 小沼 操  
役員 幹事 10名  
監事 1名  
会員数 正会員 91名  
学生会員 2名  
賛助会員 13社 (平成23年11月30日現在)

5 沿革：

平成15年(2003)に動物サイトカインの基盤研究並びに臨床への応用を目的に動物サイトカイン研究会が設立された。本研究会の活発な活動により動物サイトカインの基礎研究は飛躍的に進展し、世界と肩を並べる研究成果を発表してきたが、基礎研究の進展に相反して、サイトカインの臨床応用は停滞し、いくつかの例を除いて基礎研究を土台とした製剤開発までいたっていないのが現状であった。これにはサイトカインのような評価の難しい製剤に対する製剤開発における有効性、安全性評価がはっきりしなかったことが一因かと思われる。加えて、獣医・畜産領域では、難治性疾病の広がりから、動物用サイトカインの臨床応用のみならず、新規のワクチンや治療法の開発などが叫ばれてきた。そこで平成22年(2010)4月、動物サイトカイン研究会を発展的に改組し、動物用ワクチンも包含した新しい会「動物用ワクチン－バイオ医薬品研究会」を発足させた。



動物用ワクチン—その理論と実際—  
動物用ワクチン－バイオ医薬品研究会 編  
文永堂出版 (2011年11月発行)

6 活動内容と特色：

本研究会は、これまでのサイトカイン研究の他、動物用ワクチンを主体に、抗体製剤、診断液、バクテリオファージ等の生物学的製剤全般をも研究対象としており、会員相互の基礎研究の推進に加え、民間製薬企業のワクチン開発やバイオ医薬品の製剤開発の推進に寄与している。会の活動としては、秋期獣医学会時に年1回の総会とシンポジウムの開催に加えて、年2回のニュースレターの発行により会員に新規情報を提供している。会の特色として、農水省の補助事業で評価の難しいバイオ医薬品の製剤開発のためのガイドライン(牛乳房炎用ワクチン臨床試験ガイドライン、乳房炎治療サイトカイン製剤の臨床試験ガイドライン)などの提案を行ってきた。今後、組換えワクチンや遺伝子治療のガイドライン、ワクチンプログラムやサイトカイン治療指針等についても提案していきたいと考えている。加えて研究会では、動物用ワクチンを総合的に解説したわが国初の画期的な書籍「動物用ワクチン—その理論と実際—」(写真)を昨年出版した。

本研究会では、大学、公的研究機関、民間製薬企業の方々にとどまらず、規制当局の方々も参加しており、さらに多くの方々からの参加を期待している。

本会への入会をご希望の方は、ホームページの入会案内から申込書をダウンロードし、事務局にお送りいただきたい。

7 文責者：小沼 操